

満天 LETTER

～2011年7月号～

写真：七帝戦の有力選手たち



目次

1 コーチ挨拶	2
2 七帝戦展望	3

3 主な試合結果	9
4 その他	10

1.コーチ挨拶

コーチ（熊谷）

OB・OGの皆様へ～7大戦の応援とOB会費納入のお願い～

もう梅雨が明けたかのような、暑い日が続きます。いかがお過ごしでしょうか？満天レターの冒頭をお借りして、日ごろのご支援・応援のお礼を申し上げます。

今シーズンは、まず5月の関西ICでは、2部優勝で一部復帰を果たしました。各メンバーが自分の役割をきっちり果たし、目標としていた得点を上回る結果でした。順調な滑り出しですが、贅沢をいえば、優勝が2種目しかなかった事、自己BESTを更新した選手が思っていたより少なかった事です。

さて、7月は7大戦の季節、今年は北大主管です。今年も男女とも3連覇を目指して総合優勝争いが出来る状況で、試合を迎えられそうです。詳細は以降のチーム状況と学生の分析をご覧ください。7大戦では、自己BESTを更新する学生が何人出てくるかで、苦戦するか快勝出来るかが分かれます。この時期は各チームとも戦力を伸ばす時期ですので、6・7月の練習の充実度が、その鍵を握っているといえます。学生たちの後押しをして、より万全に近い状態で試合を迎えたいと考えています。

札幌が遠方になる方がほとんどと思います。是非応援に駆けつけていただき、3連覇の後押しをしていただければと思います。よろしく申し上げます。

OB会費についてお願いがあります。従前より陸上部の活動費の約半分は、皆様のOB会費によりまかなわれています。従ってOBの皆様は、現役時代にその恩恵をすべからず享受しておられました。近年のOB会費の納入状況は、全体ではOBの約3割の方にご協力いただいています。年代で見ますと、年代が若くなるほど納入していただける方の比率が低下しています。特に卒業後10年以内の若いOBの方々の割合が最も低くなっています。他校と比べ決して高い比率ではありません。部員の人数も院生をのぞいても、常時100人を超える規模となりました。活動のための経費も増えています。大学からの援助も多少ありますが、練習に必要な道具や備品の購入等いろんな費用が必要です。チームがさらにレベルアップしていくために、是非ご高配の上ご協力をお願いします。

2. 七帝戦展望（トラックパート）

【日時】 7月23日（土）オープンの部、24日（日）対抗の部

【場所】 札幌厚別公園競技場

七帝戦のトラック種目の目標や展望をパートごとにまとめました。なお、フィールド種目の展望や戦力分析等は次号で掲載させていただきます。

・短短パート パート長、星野誠

【100m】

田宮(4回生)、長野(3回生)、脇田(2回生)が出場します。田宮は、やや波のあるものの、今春の好調から調子を落とさずきています。昨年も夏にピークをしっかりと持ってきており、七帝戦にも万全のコンディションで挑めるでしょう。今季調子が上がらず苦戦していた長野は先日、向かい風の中11秒1台を出すまで調子を上げてきており、七帝戦でも更に記録を伸ばし、10秒台へ突入してくれるのではないかと期待できます。脇田は100m～400mまでこなす選手で、どの種目も調子を上げてきており、体の状態は上向きだと考えられるので、七帝戦で活躍が期待できます。この種目は京都大、九州大の強力なスプリント陣により上位入賞がかなり難しく、得点するにも10秒台は必須という状況ですが、1点をもぎ取りに行つて欲しいところです。

【200m】

長野、山田(2回生)、山本(2回生)が出場します。長野は関西 IC では200mに出場しており、200mに関しても徐々に経験を積んできています。七帝戦の舞台で大爆発してくれることを期待しています。山田は昨年1回生ながら22秒3台の記録を出しています。今季は小さな怪我を重ね出遅れている感はありますが、現在復調してきています。山本はここ最近の練習での走りには目を見張るものがあり、長野とも遜色ありません。七帝戦での好記録に期待がかかります。200mは、表彰台は難しいものの、100mに比べ得点の可能性が高く、22秒前半が得点ボーダーになっているので、しっかりと得点圏内に入ってもらいたいところです。

【4×100mR】

田宮、長野、山田、脇田、山本、出口(2回生)のエントリーです。走力差がみな少ないため、バトンパスがスムーズにでき、また誰が走っても安定したタイムを出せるチームだと思います。関西 IC での4継チームの柱であった大家、来間のM1コンビの穴を如何に埋めるかがチームとしての課題となるでしょう。京都大、九州大の強力なスプリントチームに挑みつつ、確実に名古屋大、東京大を抑えていきたいところです。

【110mH】

4 回生の上田、島田、3 回生の松崎が出場します。上田は調子に波があるものの、フラットのスプリントでは春から現在まで好調であり、110mH 技術とスプリント力をいかにかみ合わせるかが七帝戦までの課題と言えるでしょう。島田、松崎はともに跳躍パートで活動していますが 2 人とも七帝戦のこの種目では入賞経験があり、経験はしっかり積んでいます。現状は 3 位以下の争いが混沌としている状況で、チャンスは転がっています。ただし、関西 IC も似たような状況で得点出来なかったことを考えると油断は禁物で、まずは着実に勝負を制して欲しいところです。

・短長パート パート長、小間洋和

男子短長パートの目標は、400m、400mH、4×400mR の 3 種目で 20 点取ることです。今年の 400m 競技は他大学のレベルも低くなく、上位は 48 秒台もしくは 49 秒前半での争いになると思われます。それに伴いマイルリレーも、競合校の京都大学、400m 選手急成長の名古屋大学との混戦模様で、簡単には我々に優勝を渡してくれません。以下、各種目についての目標と展望です。

【400m】

この種目には高橋勇理(3)、鈴木友之(3)、神谷廸郎(3)の 3 回生トリオが出場します。49" 28 の記録を持つエース高橋はぜひ表彰台に乗ってほしいところです。鈴木、神谷には厳しい戦いになりますが予選から自己記録を破るつもりで挑み、他大学の選手を怯ませてもらいたいです。自己記録を破り 50 秒 0 近く行けば決勝進出の望みもあります。目標点は 4 点。

【400mH】

この種目には小間洋和(4)(筆者)、奥野晃弘(2)、松山真也(1)が出場します。短距離種目で最も多くの得点が期待できる種目です。53" 68 の記録を持つ小間は自己記録を更新して 52 秒台での優勝を狙っております。松山は目標 54" 80 で 3 位以上、奥野はやや厳しいが 56 秒を切って決勝進出を目指します。目標点は 10 点。

【4×400mR】

この種目への出場は、小間洋和(4)(筆者)、高橋勇理(3)、鈴木友之(3)、奥野晃弘(2)、松山真也(1)の、400m 及び 400mH の出場者 5 名が兼務します。さらに、短短パートから脇田和史(2)の力を借りて以上 6 名で挑みます。関西インカレのマイルリレー(3'17"19)でリレーメンバーを務めた小間、高橋、脇田の 3 名は 48、49 秒で回れる自信がありますが、あと 1 名、49 秒台で走れる力が欲しいところです。予想では 3'18"前後での争いになります。また、阪大に限らずどの大学も選手の消耗が激しいです。400m と 400mH が終わってから、どれだけ効率的な回復を得られるかが鍵となります。接戦になることが予想されますが目標は優勝です。6 点。

・ミドルパート パート長、安部勇輝

【男子 800m】

4回安部、3回松井、1回田中が出場します。昨年の上位入賞者が多数卒業ことでレベルはやや低下しております。今季1' 55" 06で現在優勝候補の安部は、宿敵である大川(京大 4)をいかにして押さえ込むかに意識を集中すれば良いものの、予選通過ラインの1' 59~2' 01の記録を持つ選手が非常に多く、今季2' 01" 46の松井・2' 04" 94の田中にとっては予選から手に汗握る戦いが予想されます。また800mは総合優勝争いをするであろう京都大に選手層が充実している種目でもあり、我が校の総合優勝のためには、安部の優勝、松井・田中の入賞が大きな鍵となります。

【男子 1500m】

3回の酒井、松井、梅本が出場します。今季3' 58" 54の酒井は現在優勝候補です。3分台をもつ三上(東北 2)、東(東大 4)の存在は気になるものの、これまでの実績と今季の調子の良さから酒井の優勝は固いと思われれます。ただし酒井はあとに5000mも控えているので、体力を消耗する戦い方を避けて5000mにうまく繋げられるかがポイントになりそうです。また、今季4' 02" 24の松井、4' 06" 01の梅本も得点圏内にいるので、酒井に加えてこの二人が何点稼げるかが大きな鍵となります。午前中種目であるこの種目での大量得点で、阪大勢に勢いをつけたいところです。

・ロングパート パート長、船戸敦

【5000m】 出場選手： 梅本(3)、酒井(3)、西村(3)

梅本

1500に続き2種目めの出場となります。今季はシーズンインから自己ベストを更新し、波に乗っている選手です。冬季の走り込みも十分で、2種目めでもしっかり走れることは皆が認めています。持ち前の積極性のある走り、格上の選手たちと勝負してくれるでしょう。

酒井

昨年も4位に入賞する力を持った選手でしたが、今季さらに成長し誰もがエースとなりました。酒井も1500に続いて2種目め出場ですが、十分2冠を狙える位置にいます。昨年にくらべて勝負強さが増し、それは関西インカレ5位、名大戦の優勝で示されているといえます。今回は昨年5000m2位の宮野(東大)との勝負になると思われれます。暑さ耐性があり粘り強い選手であります、酒井が勝負強さを発揮ししっかり競り勝ってくれると思います。

西村

昨年6位に入賞している選手です。冬季から中距離の練習に参加し弱点のスピードを強化してきました。もともと心肺機能はチームでも群を抜いており、高いレベルでしっかりとペースを刻める選手です。七大戦特有の上げ下げの激しい展開に惑わされずに、さらに冬の間磨いた中距離選手並みのスパートで去年に続き入賞を果たしてくれると思います。

昨年と比べてレベルは下がり気味で、3人に入賞の可能性はあります。先に書いた東大の宮野と酒井が少し抜けており、それに続き15'10~30程度の選手が入賞を狙っているという状況です。酒井は優勝を、梅本と西村は粘り強い走りで入賞を果たしてほしいと思います。

【3000mSC】 出場選手： 有本(2)、飯尾(1)

有本

酒井、梅本とともに長距離パートを引っ張っている選手であり、特に6月以降は練習でも試合でも強さを発揮しています。昨年の駅伝予選会、今年の関西インカレなど大舞台での経験に加え試合でのピーキングもうまい選手なので、七大戦でも力を十分に発揮し表彰台に上ってくれると思います。

飯尾

有本と変わらない自己記録を持つ期待の1回生です。部内のセレクションで上回生を破り枠を勝ち取りました。練習、レースともに物おじしない姿勢は1回生とは思えないものがあり、七大戦ではランキングを覆し入賞を果たしてくれるのではと期待しています。

七大戦最初のこの種目、ここ2年は山根(M1)の優勝で阪大に勢いをもたらしていました。層の厚い名大・東大を筆頭に9'30を切る選手が数名、9'40~45の選手が数名おり優勝確実とはいきませんが、有本・飯尾ともに今まさに上り調子な選手ですのでランキングを覆して阪大を勢いづけてくれると思います。

・女子短距離 女子主将、絹岡なずな

【100m】

牛山(3)の怪我の経過次第で正選手が変わってきますが、まず絹岡(4)の出場は確実です。昨シーズンよりは遥かに好調な出だしで、心配されていた踵の怪我也だましましたし何とかなるだろう、といった具合です。先だつての阪名戦では惜しくも2位、成瀬(4)に優勝の座を与えてしまったことへのリベンジを七帝戦で果たしたいところです。もう一人は馬越(1)ということになっていますが、おそらく当日は補欠との交代で牛山が走ることになります。馬越はこの2カ月ほどでブランクを埋めつつあり、短長パートながら短短パート種目にも十分食い込める実力をつけてきています。しかしここはやはり、部内で唯一今シーズン12秒台を出している牛山に走ってもらいたいところです。疲労骨折という大きな怪我と、モチベーションを下げることなく闘う彼女に栄光は輝くことでしょう。二人でワン・ツーフィニッシュを狙い、ここで点数をがっばり稼いでおきたいところです。

【400m】

昨年王者の牛山(3)とルーキー中(1)が出場します。牛山は怪我で最近の走り込み量は他の選手には敵わないかもしれませんが、それはこれまでの練習で培ってきた技術やポテンシャルがカバーしてくれるでしょう。他大学からは怪我人だと甘く見られているかもしれませんが、本人の意気込みも十分ですのでここで昨年王者の貫録を見せつけたいところです。もうひとりの中は1回生にも関わらずこれまでに関カレ出場なども果たし、場数は踏んできています。記録も徐々に伸びてきており、短長パートの次世代を担う者としての意地を見せてもらいたいです。初めての七帝戦という舞台に、その感覚がわからないまま出場するというパターンが多い例年の一回生の中にあって彼女は意識も高く、良い盛り上がりを見せています。他大学の選手を脅し、予選通過、あわよくばポイントを狙いたいところです。

【4×100mR】

関カレとは大きく選手や走順を変更し、馬越(1)、牛山(3)、宮崎(4)、絹岡(4)(以上正選手、走順通り)、岡澤(1)、川守田(3)のエントリーです。選手の状態を見て一走は岡澤との変更も予想されますがとにかくこのメンバーで去年、一昨年の連覇でどちらも果たせなかった優勝の悲願を追います。先の阪名戦では負けてしまいましたが、そこから川守田と牛山にチェンジをかけ、戦力的にはアップが図られています。3度目の正直、いい加減雪辱を果たしたいところです。宮崎、絹岡にとっては最後の七帝、最後の種目となります。俗に言う『4回生パワー』の爆発も大いに期待できます。

・女子ミドル、ロング 女子ファミリー長、益岡ゆき

【800m】

4回生の澄川、2回生の平川が出場します。昨年の4位は2' 19" で、非常にレベルの高い種目です。今シーズン好調の平川が、名阪戦では2' 24" 87の自己ベストで快勝しており、七帝戦でもポイント争いに絡むと予想されます。澄川も冬季から順調に練習を積んできており、2' 30" 切りが期待されます。タイムテーブルが去年とは変わり、3000mの後に800mが行われます。他大学では2種目兼ねている有力選手もいると考えられるので、積極的なレースをして、ポイントをとることが目標です。

【3000m】

5回生の安川、4回生の益岡が出場します。昨年2位の安川は、今シーズンの3000mの記録はありませんが、blankがありながらも調子を上げてきています。益岡は10' 25" 27の自己ベストを出し、ポイントに絡める位置まで来たと思われます。実力が抜けている名古屋大学の鈴木選手、昨年5000mの東北学生新を出した東北大学の及川選手などの有力選手はいますが、ポイント圏内では混戦が予想されます。両選手がポイントをとることが目標です。

3.主な試合結果

第 65 回大阪大学・名古屋大学対校陸上競技大会

第 18 回大阪大学・名古屋大学対校女子陸上競技大会

平成 23 年 5 月 28 日(土) 愛知・知多運動公園陸上競技場

[男子]

- <1500m> 1 位. 酒井 健 (阪大) 4'05"90
- <5000m> 1 位. 酒井 健 (阪大) 15'11"53
- <走高跳> 1 位. 滝川 憲 (阪大) 2m05
- <三段跳> 1 位. 勢力 薫 (阪大) 14m50(+0.6)
- <砲丸投> 1 位. 福井 康大 (阪大) 11m27
- <円盤投> 1 位. 鶴崎 晋也 (阪大) 36m36
- <やり投> 1 位. 中澤 密 (阪大) 60m55

[女子]

- <800m> 1 位. 平川 菜央 (阪大) 2'24"87
- <1500m> 1 位. 益岡 佑季 (阪大) 4'59"67
- <走高跳> 1 位. 宮崎 福美 (阪大) 1m35

※詳しい結果はホームページで確認できます。

<総合得点>

男子の部

	大阪大学	名古屋大学
トラック	65 点	69 点
フィールド	77 点	47 点
総合得点	142 点	116 点

女子の部

	大阪大学	名古屋大学
トラック	22 点	23 点
フィールド	16 点	14 点
総合得点	38 点	37 点

阪名戦 男女アベック優勝!!

4.その他

阪大陸上部公式ホームページについて

試合結果、最新の部員名簿などは公式ホームページにも掲載しておりますので、よろしければそちらもご覧ください。また、OB掲示板も開設しております。情報交換の場として大いにご活用ください。

公式ホームページ <http://www.osaka-u-athlete-club.com/>

OB掲示板 <http://hidebbs.net/bbs/mantenkai>

記載内容についてのご意見、また配信停止をご希望等ありましたら

松崎通弘（工・応自3） manten.letter2010@gmail.com

までご連絡ください。

満天LETTER 2011年7月号

発行 大阪大学陸上競技部

大阪府豊中市待兼山1-1

発行日 平成23年7月5日

編集責任者 松崎 通弘
高橋 遼